



千代鶴是秀の九三房（常設展示「名工の輝き」コーナー）

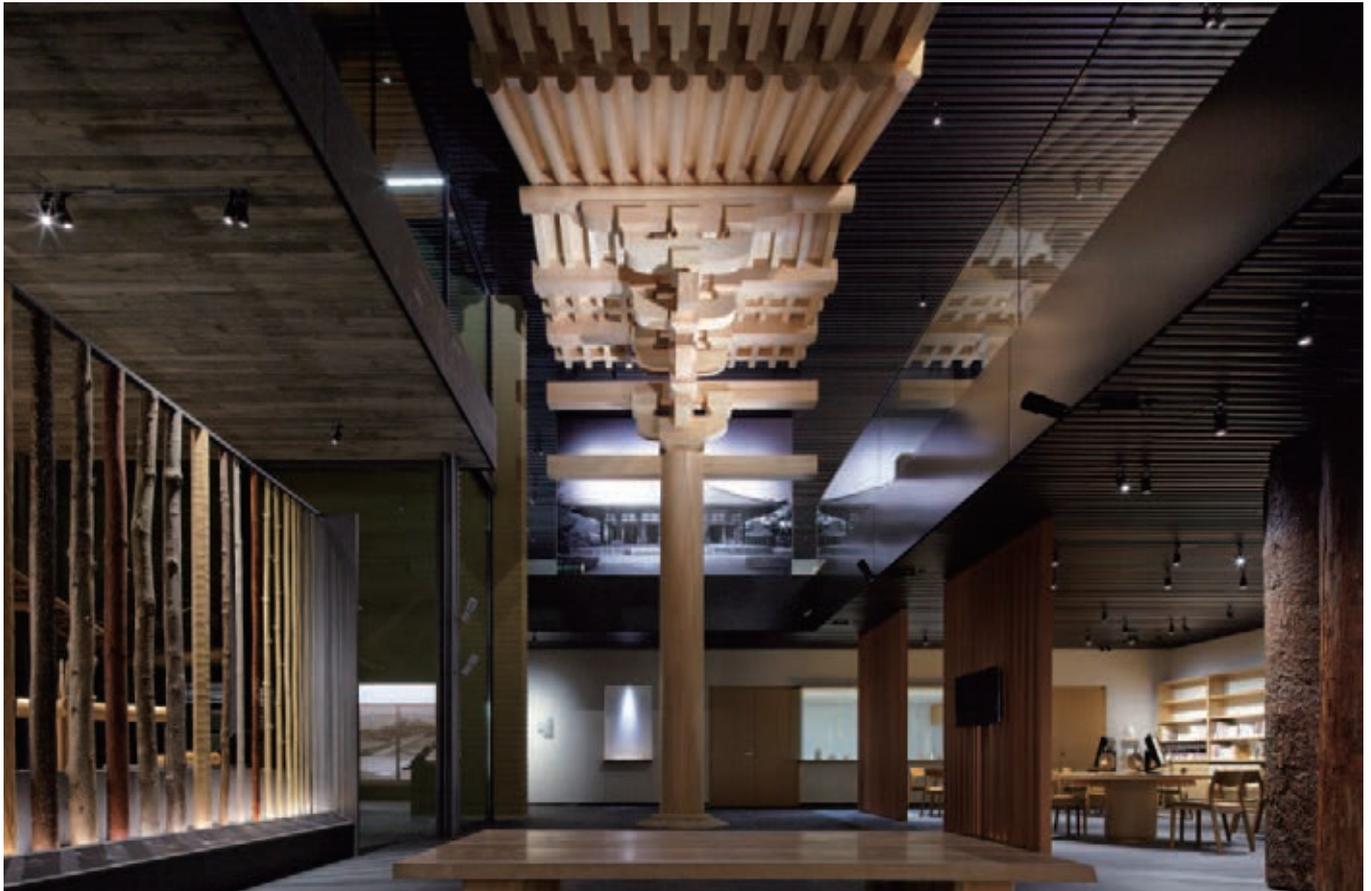
CONTENTS

EXHIBITION	常設展
	【巡回展】日中韓 棟梁の技と心
	【企画展】小椋榮一展、一脚展
	【特別展】千代鶴是秀
EVENT	特別講演会
	茶室「一滴庵」特別公開
NEWS	研究紀要第26号のご案内
COLUMN	先史時代の斧を復元する
SEMINAR	「技と心」セミナーのご案内

展示紹介 一千代鶴是秀の工房一

新しく名工品コーナーの傍りに千代鶴是秀の九三房を再現しました。工芸の域に達すると評されるほどの機能美に溢れ、使い手の要求を遥かに凌駕する切れ味と作業性を備え、使うことを^{ためら}うまでの完成度に到る作品がどのような場所で作られたのでしょうか。実際に見ると^{あっけ}なほど呆気ないほど整然とした室内です。必要最低限にして吟味されつくした道具だてと配置。30年以上にわたってほとんど姿を変えることがなかったといいます。真の名工の佇まいとは。その工法を再現した映像とともにお楽しみいただきたいと思います。

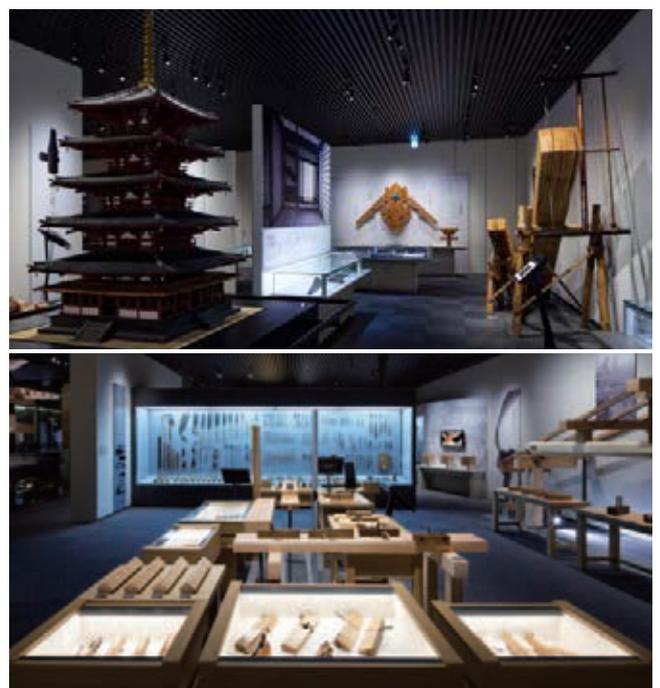
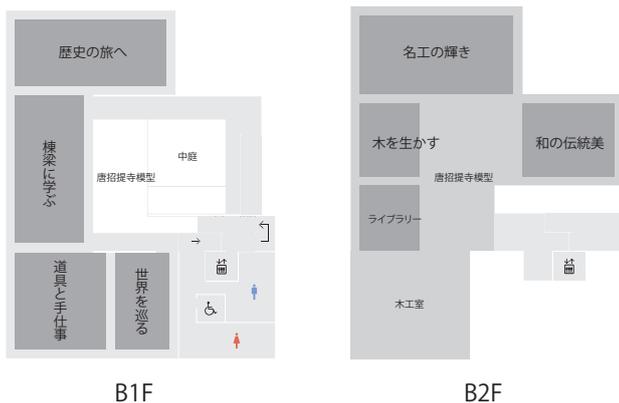
EXHIBITION



吹き抜けのシンボル展示・唐招提寺金堂実物大模型

新しくなった常設展でお待ちしています

昨年10月4日から一般公開となった新常設展。展示面積は旧館に比べ約1.8倍、天井も高くなり「広がって見どころが増えた」「道具以外の展示も充実している」「触れる展示が面白い」など好評をいただいております。その一部を写真でご紹介します。ぜひご来館の上、その目でお確かめ下さい！



上「歴史の旅へ」下「道具と手仕事」



左上:「世界を巡る」 左下:「名工の輝き」 右上:「和の伝統美」 右下:「木を生かす」

『竹中大工道具館 常設展示図録』のご案内

新しい常設展示を紹介する図録を発行しました。展示模型の迫力や大工道具の美しさを物語る臨場感あふれる写真をメインにした、ビジュアル的に楽しめる本です。展示模型を製作した職人の方々のインタビュー記事も収録し、展示品にこめられた腕の見せどころなど、展示の舞台裏も紹介。大工道具をより深くご理解いただけるよう、基礎知識を集めた巻末資料も充実させています。

・定価:2,000円(税込)

・頁数:192頁

※当館ミュージアムショップでの販売のほか、通信販売も行っています。※詳しくは当館ウェブサイト通信販売ページをご覧ください。



「竹中大工道具館メンバーシップ」のご案内

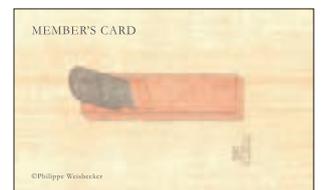
このたび、当館をより身近に楽しんでいただくために、「竹中大工道具館メンバーシップ」を設けました。この機会にぜひ、ご入会ください。

【年会費】一般 2,000円、シニア(65歳以上) 1,000円

- 【特典】
1. 無料入館(会員ご本人様のみ。年度内ならいつでも)
 2. 当館の広報誌の送付およびイベント等のご案内
 3. 企画展図録のご優待
 4. ミュージアムショップでの10%割引
 5. 記念品の進呈(ご入会時)

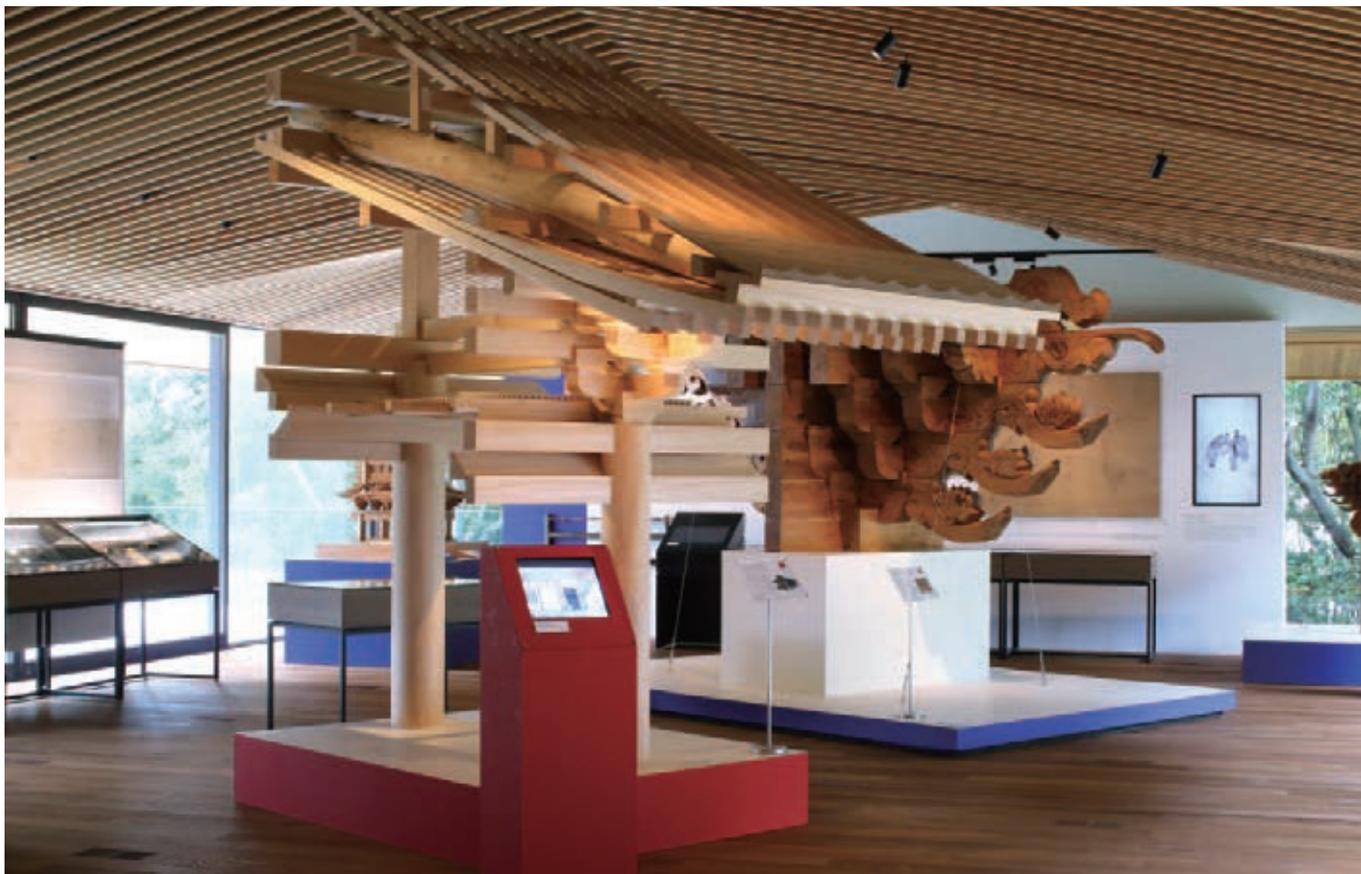
【入会方法】下記の方法にてお申込みいただけます。

1. 当館受付におけるお申込み
申込書のご記入および年会費のお支払い
2. ウェブサイトからのお申込み
申込書のご記入および当館指定口座への年会費お振込み



※詳しくは当館ウェブサイト メンバーシップページをご覧ください。

EXHIBITION



「日中韓 棟梁の技と心」展 神戸会場の様子

竹中大工道具館開館30周年記念巡回展

日中韓 棟梁の技と心

東京・神戸でご好評いただいた巡回展、最後の地は名古屋です。本展では、日中韓の各国を代表する三人の棟梁が手がけた迫力の建築模型や大工道具、設計図などが一堂に会し、それぞれの「腕の見せどころ」を際立たせます。あわせて講演・実演イベントも開催いたします。三ヶ国の棟梁の技が集う貴重な機会ですので、ぜひご来場ください。

名古屋会場

2015年1月17日[土]～3月1日[日]

トヨタ産業技術記念館 特別展示室

名古屋市西区則武新町4-1-35 TEL 052-551-6115

名鉄 名古屋本線「栄生駅」下車、徒歩3分

開館時間 9:30～17:00 (入場は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

入場料 無料(常設展は別途入場料が必要)

記念イベント

講演会

「日本の建築技術と意匠—中国・韓国との比較から—」

講師 藤井恵介(東京大学教授)

日時 2015年1月25日(日) 13:30～15:00

会場 トヨタ産業技術記念館ホールA

定員 先着150名(無料・申込不要)

実演

「棟梁が語る日本建築の技」

講師 小川三夫(鶴工舎)

日時 2015年2月15日(日) 13:30～15:00

会場 トヨタ産業技術記念館ホールA

定員 先着100名(無料・申込不要)

*展示やイベントの日時・内容は変更になることがあります。最新の情報は「日中韓 棟梁の技と心」展公式ホームページにてご確認ください。公式HP http://www.dougukan.jp/jck_toryo/

主催 公益財団法人竹中大工道具館

共催 トヨタ産業技術記念館

企画 公益財団法人竹中大工道具館、水原華城博物館(韓国)

後援 外務省、中華人民共和国駐大阪総領事館、
駐日韓国大使館 韓国文化院

EXHIBITION

企画展

木と共に生きる

— 木地屋 小椋榮一の仕事 —

木を伐り出し、ろくろを挽き、木の椀や盆などの木地をつくる職人、木地屋。本展では、長野県の南木曾で活躍した木地屋・小椋榮一の作品と道具を通して、木を熟知し美しい杣目を引き出す木地屋の技と挽物の魅力に迫ります。

会 期 3月21日(土)～4月26日(日)

会 場 竹中大工道具館 1Fホール

協 力 木地屋やまと、萬松山興禅寺



小椋榮一
昭和12年、長野県木曾郡南木曾町に生まれる。16才より父・友市に師事し、以後50年余ろくろの木地屋に従事。平成5年、日本工芸会正会員に認定。平成22年逝去。



板造拭漆喰籠 興禅寺蔵

関連イベント

技と心セミナー

「木地屋の話とろくろ実演」

日時 3月28日(土) 13:30～15:00
(13:00開場)

※詳細情報・申込み方法はP8をご覧ください。

実演・体験「ろくろを挽く」

日時 4月19日(日) 13:30～15:00
(13:00開場)

講師 小椋正幸(木地屋やまと)

場所 竹中大工道具館B2F木工室

定員 30名(要事前申込)

申込み方法(受付期間:2/1～4/3)

◎ウェブメール/当館ホームページ(<http://dougukan.jp>)内イベントページより

◎往復ハガキ(ハガキ1枚につき1名様まで)/[往信用裏面]

①イベント名②参加者氏名③郵便番号・住所④電話番号⑤年齢/[返信用表面]宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。裏面は未記入のこと。/[申込先]〒651-0056神戸市中央区熊内町7-5-1竹中大工道具館イベント係

特別展

千代鶴是秀 —用を極めて美に至る—

大工道具を芸術の域へ昇華させた鍛冶の名工・千代鶴是秀。修業時代から晩年に至るその生涯を辿りながら、全国の道具所有者から集まった最高峰の作品群を一堂に展示します。また、是秀の作風に影響を与えた先達たち、技を競い合った鍛冶や交流深い文化人、そして後継者たちといったゆかりの人々にも焦点をあて、至高の大工道具の数々をうみだした名工の世界に迫ります。

会期 4月29日(水・祝)～5月24日(日) 主催 公益財団法人 竹中大工道具館

会場 竹中大工道具館 1Fホール 協力 木工具温故会、全国削ろう会神戸大会実行委員会



千代鶴是秀の鉤(当館B2Fに展示中)

第五回

座る・くらべる 一脚展 + 2015

兵庫県で活動する家具作家がそれぞれの工房から毎年新作の椅子を一脚ずつを持ち寄り展示する「一脚展」。今回の企画ではその椅子を作る際に使用する各作家のこだわりの道具や治具(写真)と共に展示します。また今年で5回目を迎える本展では、装い新たに会場を竹中大工道具館に移し、これまでの新作椅子の他、各作家の他の作品(木の家具や小物等)もそれぞれの展示ブースにてご覧いただけるようになります。ぜひご来場ください。



会 期 6月2日(火)～6月14日(日)

会 場 竹中大工道具館1Fホール

入 場 料 無料(常設展見学は要入館料)

主 催 一脚展実行委員会

出展者リスト

會田竜也、伊藤真一郎(LoCa products)、井上忠良(interior works PLUS PLUS)、岡田敦(岡田家具創造堂)、岡田光司(isdesign)、岡田貴幸(wood+iron works 2ほんの木)、柏原邦秀(L-MORE)、北島庸行(atelier KIKI)、児玉正和(鈔工房)、後藤雅宏(後藤雅宏工房)、西良顕行(wedge)、佐々木拓也(NaLgreen)、迎山直樹(Small Axe)、安森弘昌(神戸芸術工科大学准教授) (予定)

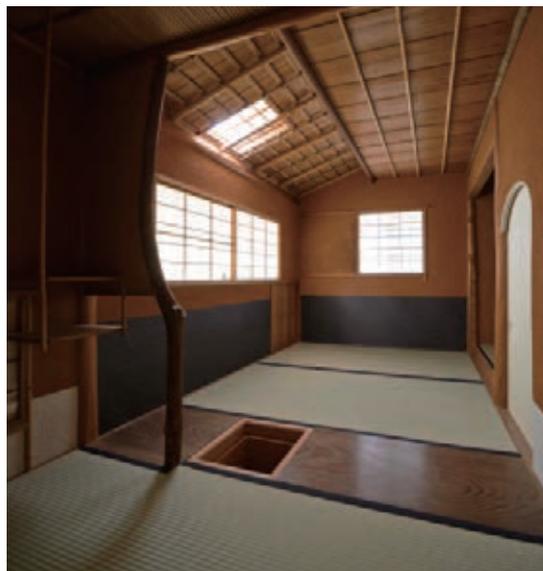
EVENT

特別講演会

日本の伝統建築の真・行・草

数寄屋普請の基本は、丸太を選び、適材適所に使うこと、そして厳密には一本として太さも形も同じものはない丸太に、墨付けをし加工して水平垂直の組み立てをする技術にあります。さらに茶室では、細い丸太を好むため壁も薄くなります。このような困難な条件の中で強固な建築を組み立てる数寄屋大工の仕事について名工との対談を通して解説していただきます。

日 時 2月7日(土) 13:00~16:00 (12:00開場)
場 所 竹中大工道具館1Fホール
基 調 講 演 中村昌生(京都工芸繊維大学名誉教授、福井工業大学名誉教授)
対 談 中村昌生・升田志郎(大工棟梁・中村外二工務店)
入 場 料 無料(先着200名・申込み不要)
主 催 一般社団法人 伝統を未来へつなげる会
公益財団法人 竹中大工道具館



竹中大工道具館茶室「一滴庵」内部 撮影/浅野豪

茶室「一滴庵」特別公開

敷地内にある茶室「一滴庵」^{いってきあん}を特別に公開します。「一滴庵」は大徳寺玉林院の「蓑庵」^{さあん}の写しで、名工と言われた京都の数寄屋師・笛吹嘉一郎による設計施工です。常設展の地下2階「和の伝統美」コーナーには内部構造がわかるスケルトン模型も展示しています。両方がみれるまたとない機会ですので、ぜひご覧ください。

期 間 4月11日(土)、12日(日)
時 間 各日とも10:00、11:00、13:00、14:00
場 所 1階ロビーに集合

※多人数の見学になるため外部からの見学のみとなります。
※荒天の場合は中止いたします。
※茶室は通常非公開です。春・秋に特別公開を予定しています。

呈茶(有料)を予定しています(人数限定・要事前申込)。詳しくは当館ウェブサイトにてご案内いたします。



「一滴庵」外観

NEWS

竹中大工道具館研究紀要第26号

当館のスタッフならびに館外の研究者による 大工道具・建築技術に関する論文集です。今回は下記の3編を掲載しています(3月10日発行予定)。

『竹中大工道具館研究紀要第26号』(A4・500円)

寺田家旧蔵の数寄屋関係史料について

小出祐子、日向進、桐浴邦夫、八尾嘉男、松本康隆、坂本忠規、中村琢巳、加藤悠希

木材展示「木を生かす」製作における伐木・製材の調査報告
中村琢巳

大工棟梁市田重郎兵衛・辰蔵の事績とその資料
加藤悠希



新館常設展示「石から鉄へ」伐木模型 撮影/光齋昇馬 白鷹幸伯氏 撮影/能田昭男 磯部保衛氏

先史時代の斧を復元する

新館の歴史コーナー「石から鉄へ」伐木模型に添えられた石斧と鉄斧。これらの斧は、縄文時代から弥生時代の伐木技術について来館者に理解を深めてもらうため、愛媛の白鷹幸伯さんと新潟の磯部保衛さんに製作していただいた復元品だ。

先史時代の遺物は、本来の形で出土することは稀で、鉄の場合は錆がこびり付いて刃物であったことさえわからない事もある。このような遺物の形をそのまま復元しても本来の形をイメージしづらいので、本来の姿を推定した形の石斧と鉄斧を復元することとした。

鉄斧の刃を製作した白鷹さんは、古代道具の復元に30年以上のキャリアを持つ。1983年の道具館開館当初から斧・鑿のみ・ヤリガンナなどの道具復元を手掛けている。薬師寺西塔再建の「千年の釘」でも有名な鍛冶屋さんだ。「今回驚いたのは、日本人にとって最初の鉄斧である板状鉄斧の形がとても合理的ということ。刃を装着する柄の孔は、刃がくさびのように働いて落ちないように作られています。柄の形も伐採時に斧の重さが有効に働くようにできています。昔の人の経験の集積ですね。」白鷹さんはい

つも、みずから過去の資料を熱心に調べてから製作に臨む。真摯に、楽しんで道具の復元に向き合う様子が、斧の打ち放しの鉄の表情からも伝わってくる。

斧の柄と石斧の刃を製作した磯部さんは、自身で復元した斧を使って木を伐っている。「ずっと趣味で道具を作っていたけど、考古学研究会を通じて山田昌久教授（首都大学東京）と出会いました。それ以来、考古学の実験をしています。」この経験が道具の復元に活かされる。「柄の出土品は破損したり減ったりしているので、力のかかり方を考えて原型を推定します。木取りは出土品にならって木目を切断しないように原木をくさびで割ります。鋸で外形をとって鑿で石が入る孔あなをあけて、最後に成形します。」苦勞するのは材料の調達だ。「特に折れ曲がった膝柄は大変です。山に入って探すんですが、ちょうどいい角度で幹から枝が出ている木が見当たらない。昔の人は、もしかしたら木の成長段階で枝の角度を操作していたのかも。」と話す。

道具復元は現代の職人にとって、昔の技術と向き合える貴重な機会。この石斧と鉄斧は、白鷹さんと磯部さんが昔の工人の技術に挑戦した作品である。

SEMINAR

「技と心」セミナーのご案内

大工道具と建築技術の専門家ならびに当館スタッフが、最新の研究成果や知見をご紹介しますセミナーです。

参加費 無料(入館料は別途必要)

開催時間 13:30~15:00(13:00開場)

会場 竹中大工道具館1Fホール ※[68]はB2F木工室

セミナー参加申込み方法

- ※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
- ※受講案内ハガキ・メールは締切日以降に発送します。
- ※締切日以降は電話にてお問い合わせください。

ホームページから申込み

当館ウェブサイト(<http://dougukan.jp>)セミナーページの申込みフォームをご利用ください。

- ※申込み人数:1フォームにつき2名様まで(ご本人ならびに同伴者1名)
- [68]は1フォームにつき1名様
- ※携帯メールアドレスはご利用になれません。

往復ハガキで申込み

[返信用裏面]

- ①セミナー番号 ②お名前(フリガナ) 参加者全員分
- ③郵便番号・住所 ④電話番号

[返信用表面]

- ・宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。
- ・裏面は未記入のこと。

[申込み先]

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
竹中大工道具館「技と心」セミナー係

[申込み人数]

ハガキ1枚につき4名様まで ※[68]はハガキ1枚につき1名様

[68] 2015年3月28日(土)(締切2015年3月13日)

きじや 木地屋の話とろくろ実演

講師:[実演]小椋正幸(木地屋やまと)、[語り手]松本直子
定員:30名

「木と共に生きる」展の開催にあわせて、木地屋・小椋榮一氏の技を受け継いだ小椋正幸氏によるろくろの実演と、『南木曾の木地屋の物語』(未来社)を執筆された松本直子氏による講演の二本立てセミナーを開催します。

[69] 2015年5月30日(土)(締切2015年5月15日)

国宝姫路城大天守の修理について

講師:加藤修治(文化財建造物保存技術協会)

今年3月、約6年間に及ぶ平成の大修理を終える国宝・姫路城大天守。本セミナーでは、姫路城の保存修理工事を担当された加藤修治氏をお招きし、修理の全容および解体調査で発見された天守最上層の窓の痕跡等についてご報告いただきます。

[70] 2015年7月25日(土)(締切2015年7月10日)

中国北京故宮の修繕組織に伝わる大工道具

講師:李 暉(東京大学大学院博士課程)

中国北京の紫禁城(現・故宮博物院)では、2007年に最高級の建物である太和殿の大修理がおこなわれました。今回の修理で棟梁をつとめた李永革氏をはじめとする4名の工匠からの聞き取り調査と大工道具の実測調査により明らかになった修繕組織で使われる大工道具について報告します。また工匠による大工道具の使い方の実演映像も交えながら、中国の伝統的な造営技術の一端に迫ります。

ACCESS 来館のご案内

開館時間 9:30~16:30(入場は16:00まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始(12月29日~1月3日)

入館料

	個人	団体
一般	500円	400円
大・高生	300円	250円
中学生以下		無料
障がい者手帳をお持ちの方及び付添者1名		無料
65歳以上の方		200円

※団体は20名以上 ※その他各種割引あり

アクセス

- ▷山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約3分
 - ▷市営地下鉄「新神戸駅」北出口2より徒歩約3分
 - ▷シティ・ループ「12 新神戸駅前(2F)」下車徒歩約3分
 - ▷神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分
- 駐車場(無料)[普通車5台、障がい者用1台]

連絡先

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
TEL 078-242-0216 FAX 078-241-4713
URL <http://dougukan.jp>



※旧館は2014年5月18日より閉館しております

※本内容は変更になる場合があります。最新情報は、ウェブサイトにてご確認ください。

本誌の無断転写・転載・複製は禁じます。
©2015 Takenaka Carpentry Tools Museum

竹中大工道具館NEWS 32号

2015年1月20日発行
編集・発行:公益財団法人竹中大工道具館
印刷:神戸新聞総合印刷

TAKENAKA
CARPENTRY
TOOLS
MUSEUM

